

●中聖牛設置 竹蛇籠の竹の節取り、ひび割れ入れ2日で完成 22日(土)7名、23日(日)5名

竹蛇籠の製作は、8月以来、試行を繰り返して、真竹が最適と確認できて、台風の後始末で河川敷竹藪の伐採が行われ、焼却処分とされるものを再利用して、割り作業を行いました。次に柔らかくて扱いやすい均一幅のものを用意することが蛇籠編みのポイントと学んで、節とりとひび割れ入れ作業を実施しました。長さ約7mの竹には20個近くの節があり、それをハンマーでたたき割り、ひびを入れました。一本の蛇籠には平均16本の素材が必要なので、27本の蛇籠だと8640(20×16×27)の節があり、その取除きは大きな仕事です。これまではハンマーでたたき割ってきました。人力で割りひび入れと節取りは一撃で的中させられたとして8640回を振り下ろさなければなりません。そこで今回は振動ローラーを使用することになりました。土木作業の道具は自重が重くないと仕事が出来ないもので、運搬車が必要になります。自重が特に重くしてあって、操作経験の積み重ねがものを言います。一朝一夕で自在に使えるものではありません。ハンドルは右や左に回すものではなく、横に押したり引いたりして進行方向を調整するので、力業で操縦するものです。慣れれば少しは出来るものですが、初めての運転者には難しいものです。何よりも5、6本並べた割り竹の上をまっすぐに進まねばならず、大変に疲れる作業でした。さらにその前に一定の幅に割り竹を並べる作業は、7mを行き来する移動作業に加えてしゃがんだり立ったりの繰り返しですから肉体的にきつい作業です。膨大な本数の割竹ですから精神的にも疲れる作業で大変でした。それに騒音が大きく疲れが加重されます。初日の運転は山村が担当し、二日目は大釜さんが操縦を担いました。最初は恐る恐る触り、前進やバックを繰り返しながらの操縦を始め、慣れるに従って要領よく無駄なく進めることができて、根っこ部分では往復して念入りに柔らかくしました。初日はローラーを動かす体力が擦り減りました。昼食休憩後はかなりスムーズに操縦の腕が上がりました。そうこうするうちに竹の選び出し作業、並べ作業、運び積み上げ作業の皆さんは調子が上がるにしたがって息次ぐ間も無い連続作業なので、体力の限界になり15時ごろに初日の作業を終えました。

翌日23日は前日と同様に午前9時に集合で作業の再開です。昨日とは比べ物にならない無駄を省いた動作で約1時間、130本程度を仕上げました。残るは幅が広いと選び残した125本の幅精製作業に約1時間を要しました。ここで昼食と提案しましたが、一挙にやりあげようとの声が続き節取りひび入れ作業を実施しました。これにも約1時間を要して正午過ぎに見事に完了しました。前日とは比べ物にならない能率のアップで、皆で「慣れ」というもののすごさに驚きました。

後しまつ清掃なども丁寧に行って、播川さんの一本締めで作業を終えました。二日間にわたっての作業、大変お疲れしました。午後からひび入れ節取りをした新しい竹を使って試験的に編んでみた福井さんは、柔らかくで扱いやすいとの感想でした。

次はいよいよ最も難しいといわれている底辺部分の組み上げとなります。この部分を作りあげると次に胴部分を編むことになります。ここでは縦支柱を加えて胴巻きを始めることになります。右回りとか左回りとか、難問になります。しかしこれは同じ作業の繰り返しですので、見様見まねできると確信しています。多くの方々のご参加をお願いします。ご参加いただくには3人一グループが最適なのですが、個人の参加も歓迎します。その心づもりでお越しく下さい。できるだけ午前中の作業3時間と予定しております。

●自然環境保全ネットワーク「河川と水辺の保全意見交換会」

24日(月)JR長岡京市駅前のバンビオで18人の参加がありました。この取り組みは結成2年目で、代表を竹門康弘先生にお願いしている団体です。京都府に自然環境調査や保全、観察などをする団体や個人が集い、京都府に活動の中心になる自然環境の博物館の実現を目指して集っています。24日は「河川の水辺の保全意見交換会」を副会長である宮崎俊一さん(乙訓の自然を守る会代表)の呼びかけで開かれました。

主催者・呼びかけの宮崎さんのあいさつの後、自己紹介を一人1分間で全員が発言し、続いて発言したいことをカードに書き込み、そのカードを各分野テーマに集約し、問題や課題、悩みなどを語り合いました。進行役を宮崎さんに担当いただきました。全員が発言を行い、能率よく交流がはかられ、約2時間があったと

いう間に経過し、有意義な時間を過ごしました。終了した後、喫茶タイムを 40 分間ほど開かれ、ここでも熱心な発言が続きました。5 時過ぎに次回にも参加を約束して散会しました。

減少しているカヤネズミやユキワリイチゲ、タコノアシ、桂川の堰撤去、どのようにして行政に理解を深めてもらい、協力を得るのか、などが話し合われました。

●マラソン実行委員会（西畑さん）との話合 ●22 日（土）16 時～17 時 30 分（里山の会事務所）播川深田大村大釜山村と、●里山の会拡大事務局会議 26 日（水）9 時 30 分～12 時 15 分（京田辺市中央公民館）12 名

22 日に開催したマラソン実行委員会との話合では、理事会決定をこれまでの清算請求方式から契約方式の提案をする理事会決定を踏まえて申入れました、諸事情から契約方式を取り入れる考えはないとの返答を受けて、話し合いました。この場は双方 5 名ずつの出席を求めましたが、連休中とのことでマラソン実行委員会からは西畑氏御一人の出席でした。話し合いの最終段、駐車場の運営とタクシーによる選手輸送については、里山の会にお願いしたいと繰り返し強調されました。

しかしその一方で、万一の場合に備えて策をと考えているということでした。その後（24 日）に返答が届きました。最後のところに話あってみたいという表現もあるので、本日、里山の会として結論を出す前にと取り組みました。そして 9 月 26 日拡大事務局会議として広く意見をつのる会議を持ちました。

この場にはマラソン実行委員会の事務局次長の西畑さん（勿論里山の会の会員）も出席されて、マラソン実行委員会の立場からの多くの発言がされました。里山の会は契約方式の提案の理事会決定の立場から深め合うことになり、約 2 時間話し合いましたが、多様な発言があつて結論には至りませんでした。

播川さんからタクシー問題と駐車場問題を切り離して考えられないのかという提起がありました。熱心に議論しましたが、結論に至らず、里山の会は理事会決定の立場にたつて、契約の不成立では、協力できないという点を再確認したことになります。マラソン実行委員会からは 2 つの取組をお願いしたいという立場を確認することになった会でした。里山の会からは、マラソン実行委員会からの新たな申し入れがあれば、その時に対応を考えることになるのではないかと思います。一応マラソンについては進展が見られないので、このあたりで今後この議論は打ち切りと結びました。

里山の会はこれまでのテント用の竹切りが不可能との発言に端を発して 1 年以上にわたって議論を重ねてきました。そしてこのあたりで過去の経緯を踏まえて解決方法が見いだせないかとの思いから、経過は経過として横に置き、協力体制を新しく結ぼうと第 2 回理事会で契約方式にすることを決議をしました。契約による体制をと申入れましたが、繰り返し、「お願いする」「契約はできない」との強調がされました。

出席者から、この問題を引きずることは会議出席の意欲を失わせるとの発言が複数あったことを付記しておきます。

●朝市に参加 23 日（日）2 名 6 店舗が出店 23 日（日）午前 8 時に朝市が開かれました、里山の会からは大村副理事長と吉村さんが出店をしていただきました。6 店舗が出店でした。開始時間前に大勢集まっていたき持ち込んだ品物が 10 分ほどで完売となるお店もありました。位置や場所も影響するのかもしれませんが、驚く販売状況でした。自作作物なので新鮮さおいしさをよく知っておられるのではないのでしょうか。人気店となっておられるようです。また親子で力を合わせて子どもが自立するのを援助されているお店もおられました。店棚いっぱいダンボールできれいに並べ、選びやすくする工夫をされているお店もありました。それぞれが買いてのために随分と学習されているなあと感じました。

●振動ローラーの返却のための軽トラへの積み込みが大変 25 日（火）振動ローラーは 350kg 以上の非常に重い自重を持っています。前輪部分と後輪部分の移動装置があります。ハンマモアのキャタピラは強力なゴム製なので簡単に乗り降ろしが可能ですが、鉄製の車輪なのでアルミのブリッジではうまく登れないのです。何とか有田さんと 1 時間程大苦心しました。とても滑って無理がとわかりました。そこで摩擦を防ぐために木材を敷いて金属の接点をなくすることにしました。普賢寺の「ふれあいの駅」に出かけて薪用の木材を借用してやっと乗せることができました。歩み板の準備を痛感しました。アルミのブリッジは十分重量に耐えられることもわかりました。